

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	嬉野市立吉田中学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上に関しては、基礎・基本の定着に向けて、何をどのように取り組むべきか再検討する必要がある。また、「考える」「伝え合う」「振り返る」活動のさらなる充実を図っていく。 ・心の教育に関しては、今年度の成果を次年度に引き継ぎ、個に応じた支援や特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実につなげていく。 ・健康・体づくりでは、食習慣と生活習慣についての全体指導と個別指導の充実を図っていく。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、業務の効率化と時間外在校時間の削減のための職員の意識改革に取り組む必要がある。 ・NIE実践の2年目として、小学校の実践を参考にしながら、取組の充実を図る。また、引き続き小学校との連絡・調整を行いながら、校内研究や交流活動を充実させ、小中一貫教育の推進を図っていく。
------------------	---

2 学校教育目標	賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9か年の学びのなかで～
----------	--

3 本年度の重点目標	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③たくましい心身の育成 ④小中一貫教育並びに地域とともにある学校づくりの推進 ⑤働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

共通評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		◎主担当
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「吉田メソッド」の実践 ○基礎・基本の定着 ○家庭学習の習慣化	○「吉田メソッド」の流れに沿った授業実践 をしている教員80%以上 ○「基礎学力タイム」に意欲的に取り組ん でいる生徒80%以上 ○家庭学習を毎日90分以上行っている生 徒50%以上	・「授業づくりのチェックシート(学校独自)」を活用し た授業実践と改善 ・生徒の実情に応じた「基礎学力タイム」の取組 ・生徒の家庭学習の意欲を高めるための、「家庭学 習の指導の手引き(佐賀県教育委員会)」と「吉田 小・中学校家庭学習のてびき」の活用	B	・「吉田メソッド」の流れに沿った授業実践をしていると肯定的な回答をした教員は100%。授 業で、めあての提示とまとめを行っている肯定的な回答した教員は100%。 ・「基礎学力タイム」に意欲的に取り組んでいると肯定的な回答をした生徒は93%である が、生徒の現状や個に応じた内容の工夫に取り組む必要がある。 ・家庭学習の時間が90分以上の生徒は13%と増加したが、30分未満の生徒は35%である。 家庭学習習慣の定着のために、家庭と連携した取組が必要である。	B	・テストの平均点の低さが気になる。点数がす べてではないが、今後の進学や将来の子ど またちのためにも、もう少しテストで頑張っ てほしい。	◎研究主任 学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○道徳や人権学習に関するアンケートに おいて肯定的な回答をした生徒80%以上	・道徳科の授業の充実 ・ふれあい道徳の実施 ・生徒主体の人権学習の実施 ・生徒主体のいじめに関する人権学習の実施	A	・道徳や人権学習に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は90%。 ・人権集会は、生徒主体で他学年との交流活動を取り入れた。 ・全校生徒によるいじめ防止標語の作成や1、2年生への弁護士による「いじめ予防教室」 の実施などを通して、いじめへの理解や意識向上を図ることができた。	A	・小中合同の行事があるおかげで、上級生も 優しい心をもっていてよい。	◎道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 生徒会担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向け た取組の充実	○「学校は、いじめがないように温かい雰 囲気づくりをしている」という生徒・保護者 の肯定的な回答80%以上	・職員会議や職員連絡会等での生徒について の情報共有 ・いじめアンケート(県標準式2回)の実施 ・毎月の教育相談アンケートの活用	A	・「学校は、いじめがないように温かい雰 囲気づくりをしている」との肯定的な回答をした 生徒は93%、保護者は86%。 ・「学校は、相談しやすい雰囲気がある」と肯定的な回答をした保護者は84%。 ・今後も職員間の生徒に関する共通理解といじめの早期発見・対応の取組を継続して行 う。また、保護者への連絡を密にし、学校に相談しやすい雰囲気を更に高めていく。	A	・今後もいじめ等のないよう普段の生活態 度などを見ていただきたい。 ・生徒全員が地域の方に元気よくあいさつを してくれることはすばらしいと思う。	◎生徒指導主事 教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標をもち、その 実現に向けて意欲的に取り組もうとする ための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてく れていると思う」と肯定的な回答した生徒 90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と肯 定的な回答をした生徒80%以上	・「ほめるから、はじめる。はじまる」を意識し、自他 を尊重し、支持的風土のある学級・学校づくりの推 進 ・自己実現に向けて、職場体験学習の実施やキャ リア教育等の充実	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答した生徒は95%。 保護者は89%。今後も、生徒の自己肯定感・自己有用感と支持的風土を高めるために、学 級経営を基盤とした心の教育に取り組んでいく。 ・「学級活動や総合的な学習の時間で自分の進路について考えるようになった」と肯定的 な回答をした生徒は88%。 ・キャリア教育に関する取組として、「先輩に学ぶ講演会」や夢ハンカチの取組、2年生で の職場体験や見学、体験などを実施し、生徒の意識向上に努めた。また、学校だよりや学 級通信で発信することができた。	B	・90%以上の子どもたちが肯定的な回答をして いることは、とても評価できると思う。 ・志高く学校生活を送ってほしい。	◎進路指導主事 総合的な学習の時間担当 各学年主任・担任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力 の育成」	○「睡眠時間は8時間以上とれている」と 肯定的な回答をした生徒70%以上 ○朝食を毎日きちんと食べて登校している 生徒90%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒90% 以上	・毎朝の健康観察で生徒の睡眠時間と朝食喫食状 況の把握 ・生徒及び保護者への啓発を目的とした保健だよ りの発行 ・給食センター発行の食育だよりの活用	A	・「睡眠時間は8時間以上とれている」と肯定的な回答をした生徒85%。保護者は69%で、前 回より10%増加。 ・「朝食を毎日きちんと食べて登校している」と肯定的な回答をした生徒は93%、保護者は 88%。 ・「健康に良い食事をしている」と肯定的な回答をした生徒は95%。 ・睡眠や朝食に関する調査は、毎朝のタブレットを活用した健康観察で行うことができた。 また、全校集会で、養護教諭から睡眠の大切さについての話や、保健だよりによる生徒・ 保護者への啓発が効果として表れてきている。 ・朝食を食べない生徒には、個別指導を継続的にやっていく。	A	・睡眠時間や食事は、多くの生徒が十分に取 れていると思うが、体を動かしたり、スポーツ をする時間が短い生徒が多いように思う。	◎食育担当・保健主事
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時 間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する	・業務に関するデータの共有とICTの効果的な活用 ・定時退勤日の推進 ・部活動休養日の確実な実施 ・部活動終了時刻と生徒の完全下校時刻の見直し	B	・1月までの全職員の時間外在校時間の月平均は38時間。昨年度は41時間であった。定 時退勤日を推進したり、業務支援を行うことで、若手教員の退勤時間も早くなった。 ・部活動休養日は確実に実施できているが、週末の部活動指導のために、部活動顧問は 勤務時間が多くなっている。その負担軽減のための取組が不十分であった。	B	・効率化できることは、積極的に効率化を進め てほしい。	◎管理職
	○業務の効率化により、生徒と関わる時 間の充実	○行事の見直しと実施内容を検討し、生 徒と共に活動する時間の創出と充実を図 る	・学校行事の内容(時間)の見直し ・職員朝会を水曜日(市内一斉部活動休養日)の放 課後の職員連絡会に変更	B	・職員と生徒が関わる時間を確保するために、標準授業時数に応じた時間割の見直し・作 成を行った。 ・「生徒との関わる時間を増やすために業務改善ができている」と肯定的な回答をした教 員は75%で、9月実施アンケートの89%より減少してる。今後も業務改善のための取組を一 層充実させていく。	B	・生徒と関わる時間を大切にし、生徒と先生方 の関係づくりを大切にしてほしい。	◎教務主任 管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性 と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上 した」と肯定的な回答をした教員80%以上	・講師を招聘した校内研修会の実施 ・職員会議や職員連絡会、ケース会議等で配慮や 支援を要する生徒の共通理解	B	・「特別支援教育に関する専門性が向上した」と肯定的に回答した教員は100%。支援を必要 とする生徒の共通理解と情報共有、個別のケース会議により、特別支援教育に関する 専門性と意識の向上につながったと思われる。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、より実態に応じた研修を計画し、授業実践や 生徒支援のための専門性の向上を図っていく。	B	・子どもの個性に応じた支援を、今後もお願い したい。	◎特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○9年間の学びを意識した小 学校との一貫教育の充実	○9年間の学びを意識した小学校との 一貫教育の充実	○吉田メソッドの授業づくりとNIEの研究・ 実践 ○交流活動の実施	・毎月の小中連絡会の開催 ・合同研修会の開催 ・小中相互の研究授業への参加 ・交流活動の更なる充実に向けた計画・運営・内容 の見直し	A	・毎月の小中連絡会(管理職・指導教諭)で小中連携のための協議・調整を行い、合同で の校内研究や講師を招いての職員研修、児童生徒の交流活動を計画通りに実施できた。 ・「小中の交流活動の充実に向け取り組んでいる」と肯定的な回答をした教員は88%。	A	・他校生や地域に在住している外国の方など との交流が増えても良いのではないかとと思 う。	◎教務主任・研究主任
○地域とのつながりを大切 にし、郷土愛を育む「吉田 学」等の推進	○地域とのつながりを大切に、郷土愛 を育む「吉田学」等の推進	○「地域学習はふるさと吉田について理解 するために役立っている」と肯定的な回答 をした生徒80%以上	・地域学習の充実 ・地域に貢献する活動の実施 ・地域人材の活用	A	・「地域学習はふるさと吉田について理解するために役立っている」と肯定的な回答をした 生徒は83%。 ・地域学習は、年間計画に沿って実施することができた。また、地域人材を活用した「手話 教室」「食育教室」などの新たな取組も実施した。	A	・地域の方々に協力いただき、今後も様々な 体験学習を実施してほしい。 ・吉田を好きな生徒がとても多く、今後もそう 思い続けてほしい。	ボランティア担当 総合的な学習の時間担当 ◎各学年主任 管理職

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・小学校や地域、関係機関との連携・協力を得ながら学校運営に取り組んだが、次年度は、教育目標にある「地域とともに」「9か年の学び」をより意識し、小学校との連携、地域のもの、ひと、ことを活用した実践をさらに推進し、ふるさと吉田を誇りに思う気持ちを高めていきたい。 ・県教育委員会の合言葉「ほめるから、はじめる、はじまる。」のもと、全職員で生徒の自己肯定感、自己有用感の向上を目指して、活躍の機会創出に取り組み、変容が見られてきている。次年度も継続しながら、発達支持的生徒指導をより意識し、生徒自身が自発的・主体的に成長・発達しようとする環境づくりや仲間づくりに取り組む。 ・NIEの実践については、PDCAサイクルを意識し、随時見直しながら推進し、社会への関心を高めたり、思考力や表現力の向上に繋がってきている。この2か年間の実践は次年度の教育課程に生かし、本校の特色として育てていきたい。 ・学力向上が喫緊の課題である。基礎的・基本的な知識・技能の定着と学力向上を支える学級経営の充実に取り組む必要がある。また、学力向上に不可欠な家庭学習の習慣付けと内容充実、小学校や家庭と連携して取り組まなければならない。 ・時間外勤務時間が前年度と比較し減少するなど一定の業務改善の成果を得ることができているが、次年度以降も生徒と関わる時間の確保や活動の充実を図りながら、働き方改革に取り組む。
----------------	--